

買物は投票だ！

地産地消から



NEWS!

2023. 11月号

使い捨ての生活からの脱却で持続可能な地球環境を次世代に

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク

●〒565-0842 吹田市千里山東 1-14-26 ほぼエコcafé & Gallery NAZ(ナーズ)内

●年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)

●郵便振替 00920-8-154437 ●TEL06-7222-8005 ●E-mail greencon@g2.xrea.com 5 ●http://www.greencon@g2.xrea.com

大量生産・消費から資源循環を今こそ 買い物で意思表示しよう

マイ容器・用途別マイバックもってお買い物にでかけよう。

日本はプラスチックの生産量で世界第3位という大量生産大量消費が、いまだに続いています。特に1人当たりの容器包装プラスチックごみの発生量については、世界第2位と、この問題に国際的な責任を持たなければならない立場にあります。

実際コンビニの普及もあり、国内で年間に流通するレジ袋の枚数は、有料化されても推定400億枚(一人当たり一日約一枚)消費されています。ペットボトルの国内年間出荷は227億本に達します。

日本では廃棄されるプラスチック(廃プラ)の有効利用率が84%と進んでいるとされていますが、全体の57.5%は、燃焼の際にエネルギー回収する「サーマルリサイクル」という処理方法に頼っています。これは、化石燃料を燃やし、CO2排出していることで、地球温暖化を加速させています。持続可能な方法とは言えません。



<イラストは高月紘ハイムーン工房より>

実践1 天神祭ごみゼロ大作戦

リユース食器の普及、資源物を分ける

実践2 リフィル大阪

街中で、無料給水場所の普及(店舗対応、駅、公園など公共施設への設置普及、お店でのデリバリーには、マイ容器持参を。

実践者が1人から100人に、1000人…に増えれば、資源の無駄遣いをなくせられる。

プラ容器を断る勇気をもとう!

このように、日本では、プラスチックのリサイクルの実態は、焼却による「熱エネルギーとしての再利用」が多く含まれています。プラスチック資源としての再利用を目指した取り組み(マテリアルリサイクル)とは根本的に異なります。地球温暖化が全人類の問題となっている中で、原油由来のプラスチックの燃焼処理を推進することは、今世紀後半の実質的な温室効果ガス排出ゼロを目指すパリ協定の理念、そして、2050年までの温室効果ガス排出量80%削減を目指す日本の姿勢とも明らかに矛盾するものです。

使い捨てない社会づくりへ リユースで循環型社会経済が持続可能な地球環境を守ることが大切です。